

国連難民高等弁務官事務所

(UNHCR)のナツケン鯉都

駐日首席副代表(48)が世界難民

の日(6月20日)を前に、難民

支援を呼びかけるプロジェクト

のため岡山県を訪れた。2日、

山陽新聞社のインタビューに応

じ「できる支援を息長く続けて」

と訴えた。(25面に関連記事)

状況に立たされている。

岡山山市に本部を置く国際医

療ボランティアAMD Aは、ウ

クライナの隣国のハンガリーで

医療支援に当たっている。

海外で20年以上働いてきた

が、日本の非政府組織(NGO)

による支援は現地の人たちに安

心感を与えていると実感してい

る。AMD Aは歴史があり、経験

も豊富で、各国の評価は非常に

高く、さらなる活躍に期待してい

る。

ウクライナにとどまらず世界

で難民が増えている要因は何か。

昨年6月末時点の統計では、世

界で紛争や迫害により故郷を追わ

れた人は推計8400万人。ウク

ライナの人々などを含めるとさら

に膨らむ見通しで、第2次世界大

戦以降、最も速いスピードで拡

大している。紛争が長期化して

いることに加え、難民を受け入

れる国がまだまだ限られている

のが要因で、日本はできること

があると思っている。

ウクライナ危機が連日報道

される中、かつてないほど難民

問題に関心が高まっている。私

たち市民に求められていること

は。

UNHCRは各地で啓発活動

を進めるプロジェクトを展開

し、岡山県内でも国連UNHCR

協会や地元のこいのぼり業者

がJR岡山駅などで難民の子ど

もたちの安全と健康を願うこい

のぼりを掲げている。難民問題

への関心を一過性のものとせ

ず、継続的にできる支援を検討

してほしい。また、少子高齢化

に直面する日本にとって、この

先、外国人なしでは国は立ちゆ

かなくなる。外国人を含めた多

文化共生社会を築くという意識

も持ってほしい。

(三宅信行)

できる支援を息長く

UNHCR ナツケン 駐日首席副代表に聞く

ロシアのウクライナ侵攻で多くの難民、避難民が生まれている。

ウクライナで故郷を追われた人は約1300万人に上り、その90%は子どもや女性たち。ボランティアや家族を頼って540万人超が国外へ逃れたが、他は国内の地下シェルターなどに避難している。水や食料、医薬品が不足し、電気もつかないといった生きるか死ぬかの厳しい



「難民の問題に関心を持ち続け、できる支援を考えてほしい」と話すナツケン駐日首席副代表

なっけん・りつ 2001年に国連開発計画(UNDP)本部に入って以降、20年にわたって国連機関の本部や現場での任務に従事。国連人口基金(UNFPA)スリランカ事務所代表兼モルディブ事務所代表などを経て、21年6月から現職。国際基督教大卒、米国ニュースクール大学院修士課程修了。東京都出身。